

袖ヶ浦市郷土博物館友の会・会報

友の会だより 第56号

発行 友の会事務局

袖ヶ浦市下新田 1133 番地

郷土博物館友の会

TEL:0438-63-0811

FAX:0438-63-3693

発行日:令和6年12月26日

本年度第2回自然と歴史の散策会

南房総小松寺・石堂寺 散策

R6年12月10日(火)

本年第2回目自然と歴史の散策会は、南房総市の古刹・小松寺と石堂寺を訪ねた。26名がバスで博物館駐車場を出発。天候に恵まれ陽光でバスの中は暖かい。

先ず檀特山小松寺から参拝する。お寺の住職から寺の由来を聞き、ご本尊の薬師如来の御前立本尊を仰ぎ見る。

住職のはからいで御前立本尊と本尊を守る不動明王と毘沙門天・12神将などを間近に見学させて頂いた。同寺の仁王さんは、他のお寺の仁王像と違い、まるで皮のパンツを履いているようで親近



小松寺の仁王さん

感が湧いた。本堂の側にハガキの木(葉書)といわれる多羅葉の大きな木があった。

次の石堂寺は、現存する南房総最古の寺院で国・県・市の指定文化財を多数保有していますが、それは、それで又大変との住職の話も聞きました。

境内多宝塔に取り付けられていた波の伊八の作品は、現在、客殿にて保管されており有料にて拝観した。

午後1時半和田浦道の駅WA・O!で昼食をとった。鯨もおいしく、天気も良く歴史あるお寺・紅葉も見られ有意義な一日でした。

袖ヶ浦市郷土博物館企画展

『袖ヶ浦古墳大辞典』

『袖ヶ浦の古墳時代』開催
R6年10月5日(土)〜12月8日(土)



R6年度秋の企画展は、袖ヶ浦の古墳をテーマに展示を勾玉づくり等のイベントがしました。皆様、ご覧いただきありがとうございました。

古墳をテーマにした企画展は、R5年度の『西暦500の記事』を掲載しております。

＊事務局から＊
たよりに同封の『メールによる連絡通信可否アンケート』とアドレス調査に協力お願いします。



小松寺本堂前にて

年・袖ヶ浦』等を開催していますが、これまでの発掘調査の成果を総覧したのは、初めてになります。

特に古墳時代出現期(3世紀中ごろ)の古墳は、滝ノ口向台8号墳、山王辺田2号墳(のぞみ野地区)等の前方後方墳、山谷古墳(のぞみ野地区)、神田古墳群(長浦地区)の調査成果があり、この地域に東海地方やそれ以西の地域との強いつながりを示唆するものとして、非常に興味深く研究者にも注目されています。

未調査の古墳も数多くあり、古墳の主や副葬品に思いを巡らせるものも楽しいものです。会いに行ける古墳もありますので、これを機会に古墳に注目していただけたなら、企画した甲斐があったかなと考えています。

(企画担当 稲葉理恵 記)

＊尚、本企画関連の講演会、展示説明会が期間中合計4回開催され又スペシャル体験会として、『いつもと違う勾玉づくり』等のイベントが行われ延べ200名弱の方が参加されました。紙面4面には、古墳現地説明会の様子の記事を掲載しております。

友の会各グループ活動報告

植物画 葉月の会

県立中央博物館

『二口善雄 植物画展』へ

日本のボタニカルアートの先駆者、二口善雄植物画展を県立中央博物館へ見学に行つて参りました。

二口氏のアトリエが鎌ヶ谷市にあったご縁で中央博物館では、3200点も作品を所蔵しており、特にバラ・ツバキの作品が多数展示されていました。

バラは、京成バラ園の所長を務め、育種化で有名な鈴木省三氏の解説で『バラ図譜』も発刊されています。原種に近いバラから改良された品種まで、二口氏特有の力強い筆遣いを直に感じながら、じっくり原画を堪能でき、貴重な機会でした。

会ではこの時期、秋の花材を手掛ける会員が多く、ホトトギス、栃の実、黄葉したクヌギ、赤く熟した野ばらの実等々季節を豊かに感じながら和やかに活動しております。

(会員 小林和美 記)

機械の会

「ついに棉を収穫」

棉を収穫しました。育てた10本の綿に、120gの実がなりました。これから種を取り出し繊維とわけます。

和棉なので繊維の長さ3cm弱。とても弱いです。紡ぎの作業は慎重にゆつくりやりますが糸は太くなりがちです。



棉の葉と花

先輩曰く『空気をたくさん含むからあたたかい』とのこと。

どのくらいの長さの糸がつかれるか楽しみです。

(会員 今井恵子 記)

何でも有り会

「袖ヶ浦市内 神社巡り」

神社巡り

今年10月に市内の神社巡りを実施。市民会館駐車場に集合7名参加。

坂戸神社の森へ。先ず目に入ってきたのが出羽三山参拝記念碑、それぞれの時代の参拝者の氏名が記された碑がいくつも有り、今もその信仰が受け継がれていることを実感！

その傍らに天磐戸の碑、『これ何?』坂戸神社には、天手力雄命、天児屋根命、天太玉命の3神が祀られていて、アマノイワト伝説に深くかわりがあり、この碑が建てられたとのこと。

本殿で手を合わせ駅前通りを経て福王神社へ詣でた。



坂戸神社碑の前で

境内はきれいに整備されており、若い男性が参拝されていた。ここにも出羽三山の記念碑があった。

(会員 田村静子 記)

仏像を学ぶ会

東京国立博物館

「神護寺展へ」

本年9月、上野東京国立博物館で開催されている『創建1200年記念特別展 神護寺』へ、会の皆様と行ってきました。

境内はきれいに整備されており、若い男性が参拝されていた。ここにも出羽三山の記念碑があった。

住宅街を抜け、率土神社へ。数年前の台風の影響か杉の木が切られ、桜の苗木が植えられていた。数年後には、お花見出来るかも。

改めて、近隣でも歩いてみると意外な発見があり認識を新たに面白かった。

(会員 田村静子 記)

神護寺と言ったら空海。空海の寺と言ったら神護寺ぐらゐの知識しかありませんでした。会場にはたくさんの方が見学者がおり、展示物をみても何も分かりません。

ただ、説明文を一生懸命読むだけです。神護寺のチラシに載っていて、空海も見つめたと云う、ご本尊「薬師如来立像」を見てみたい、会つてみたいの一心でした。

『薬師如来』は、どこに置られるのかと思いつつ、次の展示室に入りました。

『わあ！すごい迫力！いました！薬師如来立像です』展示されていました。100点くらいの仏像が私達を迎えてくれました。

薬師如来立像は、強くもりあがった大腿部、彫の深い衣文など迫力があり、堂々とした体つきで重厚感があり、実にみごたえのある仏像でした。

『すばらしかった』の一言でした。

(会員 南マサエ 記)

事務局から一言

他市の博物館見学記、雑感等皆様の寄稿お待ちしております。



土器作りの会 「埴輪について」

前回まで『土器作りの手順』について書きましたが、今回は埴輪について紹介します。

R6年は、『挂甲（けいこう）の武人』指定名称「埴輪武装男子立像」が国宝に指定されて50周年の年にあたり、これを記念して東京上野の東京国立博物館に東北から九州に至る50箇所（米国1含む）の所蔵保管先から埴輪が大集合し、大いに賑わいました。

中でも『国宝・挂甲の武人』は、勇壮な姿や気高い表情で埴輪の造形美の極致とされ、他に

**盆栽愛好会
『秋季盆栽展』
10月18日（金）～20日（土）**

私共の近況の活動としましては10月18日（金）～20日（日）迄の3日間、R6年秋季盆栽展を開催しました。まずまずの天候にも恵まれて多くの方々に見てもらうことができました。来場の方々には、御礼申し上げます。旧進藤家で盆栽展示会を開催してから3年になったこともあり、毎回楽しみにして

同一工房で製作されたと考えられる四体の兄弟？もあって、仲良く展示されています。

今年度、当会では『円筒埴輪』を作り、郷土博物館で同時期に開催された企画展『袖



「袖ヶ浦古墳大辞典」円筒埴輪展示

下さっている方々も、沢山いまして私共としては、とてもうれしかぎりです。見に来て下さる方の為にも感動できる様な展示会を目指し、努力し、精進して参ります。これからもよろしくお願い致します。

最後に友の会関係者の方々へ、ご協力ありがとうございました。

（代表 中村康司 記）



ヶ浦古墳大辞典と袖ヶ浦の古墳時代」で展示されました。興味ある方の入会をお待ちしています。

（代表 矢野佳次 記）

風の会 『ミニ風120枚 完成めざして』

本年11月、ある学童保育より120枚の大量のミニ風の依頼が飛び込み、毎週日曜日に集まれる会員にて対応しています。毎回の参加人数は7名前後ですが、何しろ年齢は70代から80代の老人の集まりです。

集まると、お馴染みの病氣自慢と近況の話から始まります。会員の中には、コーヒを入れる名人がいて、これがまた実においしい！毎回揚げ菓子を持参する方、家で実った柿を持ってくる方もいて、話のつまみに事欠きません。

参加者の半数は何らかの病氣を持っていますが、病氣なんぞ、笑い飛ばして風作りを進めております。この作業の完了予定は、師走25日です。

さて次の日曜日にも、いつものメンバーが集まり、いつ

もの話で始まり、全員で完成を目指して進めています。

（代表 蜂須賀健二 記）

古文書いろはの会 『鹿島神宮・要石』

会では、江戸時代の『諸国里人談』という文書を取上げた。これは、諸国の里人の言い伝えや云われ等を載せており、お馴染みの所でもこんな言い伝えがあったのかと気づかされる事もあり面白い。そんな中で、鹿島神宮を紹介したい。

鹿島神宮といえど、先ず、要石（かなめいし）を浮かぶ方も多いでしょう。この要石は、古来『座石（みまいし）』とも云われ、『ゆるぐともよもやぬけじの要石 鹿嶋の神のあらん限りは』とも、詠われ、大鯰の頭を鹿島の神様が押さえつけ、地震からの守り神として古来から信仰されたことは、有名である。



大鯰の碑（鹿嶋神宮）

要石の近くに大鯰の碑があり神宮の神様が鯰の頭を押さえているが、東日本の大地震で鹿島神宮の入り口の大きな鳥居が倒れる被害が発生。

要石の押さえがゆるみ、大鯰が暴れたのか、地震の神様も油断をしたのか足元で鳥居が倒れた。世の中皮肉に出きているものだ。

過去、神無月に起きた大地震のいくつかは、鹿島の神様が出雲に向いて留守のため、に起きたとの伝承もあるが、鳥居が倒れたのは、九月である。



鹿嶋の帯占い

又、この神宮には、常陸帯（ひたちおび）という帯が神宝として本殿に祀られていると云う。その帯にあやかり『鹿島の帯占い』というものがある。右の写真の様に4本の紐が出ておりその紐のどれかを結び2組にします。その結び具合で男女の今後を占うというものです。

如何ですか！一緒に古文書、読みませんか！

（代表 今井久明 記）

郷土博物館R6年度企画展「袖ヶ浦市内古墳見学会」開催 12月7日(土)

郷土博物館企画展「袖ヶ浦古墳大辞典」の関連イベントとして、市内古墳見学会がR6年12月7日開催された。当日、天候に恵まれ、暖かく風もなく古墳巡りには申し分のない日であった。

参加22名、同館学芸員稲葉さんの案内でマイクロバスで出発。袖ヶ浦市には、572基の古墳があるそうだが、今回の現地説明会は、①バスの中から飯富真里場古墳群、②率土神社南古墳、③打越北上原古墳群、④墓山古墳群の順番で見学し、内②と③は、市指定の文化財でした。

●率土神社南古墳では、神社前の駐車場にバスを入れ、古墳は私有地の為通常は神社参道から覗き見るような格好になるが、今回は、承諾を得ており竹のバリケードの横から中へはいった。古墳は、海拔30mの台地上にあり、袖ヶ浦高校前から行く場合、急な長い階段を登り詰めた所に古墳があり、古墳築造当時さぞ、小櫃川一帯が望めて、まさに有力者の古墳の感した。

この古墳は、2段構築の帆立貝型前方後円墳であると言う。その2段構築の意味は、現地で直に接すると実感として理解できる。確かに、上段と下段からなっているのがハッキリわかる。又頂上部の祠には、八幡大神なる石碑があった。

●打越北上原古墳群は、横田の先であり、種苗会社の敷地にあった。見学したのは3号墳。推定44・5mの前方後円墳で、後円部の横穴式石室が確認され、古墳の周溝から出土した金銅装馬具の一部が、企画展に展示されました。



率土神社南古墳



打越北上原古墳群3号墳前にて

●4番目に見学したのは、のぞみ野サッカー場に隣接する墓山古墳群でした。森林公園内に現存する古墳群で、落ち葉が積りふかふかの道を歩くと、あちこちに古墳らしきの盛り上がった所が数か所あり、横穴式石室の石材と考えられる石が露出しており触れてみることもできた。



墓山古墳現地説明風景

住居地に近接して古墳があり、この現地説明会で改めて古墳に興味を持つことができた。会場を、公民館クラスの会場から博物館研修室等に縮小すれば開催可能でしょうが、魅力あるテーマや講師の選定、会員の参加状況等今後に向け理事会での検討が待たれます。

博物館からのお知らせ



●第19回新春風揚げ会
日時：R7年1月19日(日)
午前10時～午後3時
場所：袖ヶ浦海浜公園
主催：博物館友の会 風の会
(注)雨天時1月26日(日)に延期

●第175回袖ヶ浦学
『袖ヶ浦の外来種
―増え続ける侵入者たち―』
日時：R7年1月18日(土)
午後1時30分～午後3時
場所：郷土博物館研修室
定員：40名(申込先着順)
講師：水流拓馬(博物館職員)
●第176回袖ヶ浦学
『そではくバードウォッチング2025』

例年、12月頃開催している『もっと知りたい講座』は、今年度は、開催中止となりました。会場の割には、参加者が少ないのが理由の一つです。3年前に始まり、前回まで植物シリーズを開催してまいりましたが今年度の開催は見送ります。

●第175回袖ヶ浦学
『袖ヶ浦の外来種
―増え続ける侵入者たち―』
日時：R7年1月18日(土)
午後1時30分～午後3時
場所：郷土博物館研修室
定員：40名(申込先着順)
講師：水流拓馬(博物館職員)
●第176回袖ヶ浦学
『そではくバードウォッチング2025』

編集後記

日時：R7年2月15日(土)
午前9時～正午
場所：袖ヶ浦公園
郷土博物館研修室集合
定員：20名(申込先着順)
講師 大島健夫氏
(千葉市野鳥の会会長)

郵便料金の値上げにより、経費対策待たなしで今回、友の会だよりを全員に発送する機会をとらえ、アンケート並びにメールアドレスの調査を実施することになりました。現在、多くの方々がスマホを持っていて、是の活用は時代の趨勢でしょう。

事務局から会員への連絡はこの機会にメール等の一斉連絡に替え、同時に従来の宛名印刷等事務処理の省略を検討。但し、会員の中には、従来どおりの方法を希望する方々には、郵便、又はFAXなどでの連絡を行う。

又この『友の会だより』は、従来どおり紙媒体による方法で発行し、皆様へは郵便で発送する事で、受取の同時性を確実にしたい。HPの開設・運用等については、今後の理事会検討課題とする。会員の皆様のご理解をお願いする次第です。
(編集担当 今井久明 記)